

会 議 要 旨

会 議 名	平成30年度 第2回館山市行財政改革委員会
開 催 日	平成30年9月6日(木) 13:30～15:30
開 催 場 所	館山市役所 本館2階会議室
出 席 者	◆ 館山市行財政改革委員会委員 8名 ◆ 館山市(事務局) 副市長・総務部長・行革財政課(課長以下5名)
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
傍 聴 者	3名
会議概要・結果等	<p>○情報提供</p> <p>(1) 指定管理制度の導入について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度からの市営プール(25m温水・50m)、老人福祉センター(湊・出野尾)の計4施設の指定管理者制度導入について説明。 <p>(2) 総務事務センターの導入について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度からの定例的・機械的な市業務の包括的な民間委託について説明。 <p>【(1)～(2)に関する主な委員意見】</p> <p>(●:委員意見 ⇒:事務局回答)</p> <p>《総務事務センターについて》</p> <p>●総務事務センターの取り組みは、市の仕事を委託して、今抱えている職員の仕事を減らすだけでは、お金をかけて新たな仕事を増やすようにも感じる。</p> <p>⇒職員数を削減してきた中で、職員が諸業務に忙殺されえている状況が多くなっている。これを改善し、職員の本来の仕事である、市民の要望にこたえ企画・立案する取り組みにマンパワーを集中させたい。将来的には時間外や職員数の削減にもつなげられる可能性がある。</p> <p>●対応できる事業者がいるのか?</p> <p>⇒出来るだけ競争原理が働くよう、行革財政課にて営業活動をしている。</p> <p>●非常勤職員を減らしていく方向なのか?</p> <p>⇒非常勤職員の削減というよりは、同じ部署で同じようにやっている仕事をもっと効率的にできないかというもの。</p> <p>※その他、主な委員コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きい企業では事務業務を一本化している例があり、効率化につながるのでは。 ・5万人規模の人口の市ではかなり先進的な取り組みである。

《指定管理者制度導入について》

●指定管理者にどの程度裁量を認めるのか？

⇒現行のサービスは維持してもらおう。これまで開館していなかった部分で、合宿利用やトレーニング目的の貸出など、工夫してもらいたい。

●今後の料金改定はどのようなタイミングで行うのか？

⇒今回のように、裁量権を大幅に認める指定管理は初めての取組み。実際に指定管理者により事業を実施し、その状況を見ながらと考えている。

●指定管理者制度を導入するメリットは、利用料金制により努力インセンティブが働くことにある。幅を持たせた料金設定にするやり方もあるのでは？

⇒平成29年度に料金を改定しており、指定管理者制度を導入するからといって、今の水準をすぐに変えるのは難しい。

●施設改修にかかる市と指定管理者の負担は？

⇒1件10万円を超える修繕は市、10万円以下は指定管理者。ただし、工夫し稼ぐ場合のリフォーム等は指定管理者にお願いしたい。

●他の施設への指定管理者制度導入は？

⇒他施設も検討しているが、準備が整ったものから導入していく。

※その他、主な委員コメント

- ・夜間などに水泳教室を行い、収益を上げるというのはありだと思う。
- ・今プールが開いていない時間、利用したいという声はよく聞いている。需要があるのでは。
- ・学校のプールをなくし、温水プールで授業をしてもよいのでは。冬もプールができるし、経費も少なくなる。
- ・もっとインセンティブを見込んだ指定管理料を設定してもよいと感じる。

○協議事項

(3) 今後の人口予測

- ・本委員会では公共施設等総合管理計画の進捗管理を担うため、適正な市施設規模を必要があることから、今後の人口予測のうち、出生数及び児童生徒数の予測について説明。

【(3) に関する主な委員意見】

●三中の建替えの基本設計は、どの推計値によって教室数を決めるのか？

⇒まずは現在の生徒で必要とするクラス数の建物とし、将来生徒の減少や統廃合のタイミングあった場合、必要に応じ増築する等して柔軟に対応していきたい。

※その他、主な委員コメント

- ・この人口データをスタートに物事を考えていかなければならない。
- ・少人数の学校はチームプレーもできない。市内の学校で、人数にこれだけ差があるというのは問題。様々なケアを必要とする児童もおり、小規模校を再編しなければならないのでは。
- ・学校がなくなる寂しさはあるが、統合して子どもが良い環境やシステム

で勉強できればメリットがあるのでは。

- ・今マイナスに感じるところを、発想転換しプラスに変えていければよいのでは。
- ・これから楽しい街づくりをするためにも、こういったデータをもとに考えていかなければ。この地区にこの建物、という単位の話をしていても仕方ない。
- ・これからは行政に任せていけばいいという時代ではなくなってきた。でも自分たちで作っていくんだと思えば、悪いことではない。市民との協働も視野に入れた行財政改革を進めていけたらいい。
- ・5万人くらいの自治体はどこも似たような状況だが、子どもが減る、だから子どもを増やす、ではなく、「子どもの笑い声をどう残すか」というようなポジティブなビジョンの掲げ方もある。

(4) 行財政運営の現状

- ・市の広報連載や、29年度決算を基にした分析により、館山市の行財政運営の特徴や課題を説明。

⇒質疑なし。

【(4) に関する主な委員意見】

- ・若い世代は行政に何かやらしてもらおうという意識が少ない。自分たちでできることは、一つずつやっていきたい。
- ・人口が多い世代なので、人口・子どもが減っていくということがよくわからない。
- ・なぜ館山市は財政状況がよくないのか。今後は総論と個別の事業ごとに見ていく必要がある。

(5) 次回日程について

- ・10月19日(金)に決定し終了。